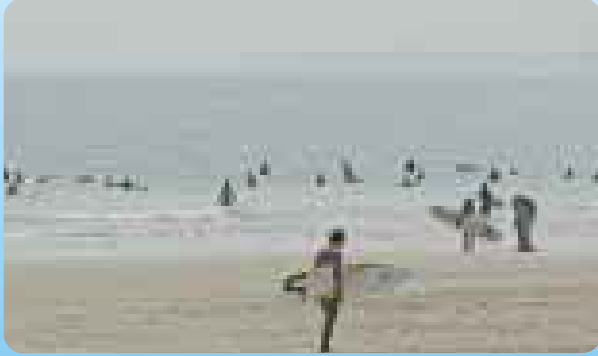


きのくに自主防災

(平成19年8月号)



<発行元>

和歌山県自主防災組織情報連絡会事務局
(県庁総合防災課内)

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL : 073-441-2271

～防災活動ひろば～

和歌山県内で積極的に防災活動に取り組んでいる、磯の浦自治会(和歌山市)、和歌山県サーフィン連盟、紀の国防災人づくり塾修了者の方々を取材しました。

「磯の浦自治会(和歌山市)」



(表彰式、東京都千代田区)

磯の浦自治会は、平成18年度第11回防災まちづくり大賞(一般部門)の消防庁長官賞を受賞しました。防災まちづくり大賞は、地域防災力の向上を目的として、地方公共団体や自主防災組織、事業所等が行っている防災

に関する様々な取り組みについて表彰する制度で、阪神・淡路大震災の後、平成8年度に創設されました。磯の浦自治会長の杉本慶蔵さんに話をお聞きしました。

1. 防災活動を始めたきっかけは

平成15年度に和歌山県立医科大学で行われた「東南海・南海地震に備えて」の講演会がきっかけです。もともと私たちの地区の住民は防災に関心がありましたが、この講演会を通じて自治会で防災活動を行うようになりました。講演会の後、磯の浦自治会で避難場所を作らないといけないという話がもちあがり、また自治会のお年寄りの名簿や災害時要援護者(避難する際に支援を必要とする)の名簿などを作る必要があるという話になりました。

2. どのような活動が評価されて防災まちづくり大賞を受賞されたのですか

磯の浦自治会では災害時の避難場所と避難路を整備しました。私たちの地区は海に面しており、津波からの避難について検討を重ねた結果、行政に頼らず自治会自らの力で地区内の高台に避難場所、避難路を整備しました。また、海水浴客や住民がスムーズに避難できるよう、案内板を設置し、そのデザインを地元の高校生に協力依頼しました。そして、県のサーフィン連盟と連携して、住民はもちろんのこと、海水浴客も対象とした津波避難訓練や夜間避難訓練を実施しました。夜間避難訓練は、暗闇という困難な状況で、昼間の訓練より多くの時間がかかりました。これらの活動を実施したことで防災まちづくり大賞を受賞しました。

3. 磯の浦自治会の活動方針、基本方針は

磯の浦自治会では基本的に隔年毎に訓練、施設見学を行っています。訓練と啓発を繰り返すことが大切です。これまで県のサーフィン連盟と協力した津波避難訓練、兵庫県の「人と防災未来センター」の見学、自治会による夜間避難訓練を実施してきました。今年は4月に広川町にオープンした「稲むらの火の館」の見学に行きたいと考えています。

わずか250世帯の小さな自治会の活動が防災まちづくり大賞（消防庁長官賞）を受賞するとは思っていませんでした。この賞を受賞でき、自治会のみなさんも喜んでいきます。磯の浦自治会ではお金をかけずに知恵をしぼって自分たちで汗をかくということを基本にしています。自分達で何かをやらなくてはなりません。人任せではだめです。もし、東南海・南海地震などの災害が起こったら、とにかく自分で逃げるという考えをもつことが大事です。自分で自分の身や家族を守ることが大事です。自分自身が助からないと人を助けることもできません。

4. 今後の取り組みについて

今後は避難場所への案内板をもっと充実、普及させていきたいと考えています。災害は実際に経験してみないとわかりません。また、災害時には訓練どおりにも行きません。個人や自治会で災害に備え行動していくことが大切です。今後も訓練と啓発を繰り返し、防災活動に取り組みたいと考えています。



(津波避難訓練)



(案内板)

「和歌山県サーフィン連盟」



(県サーフィン連盟会長、梅本さん) 「沿岸地域では地震が

県サーフィン連盟会長の梅本利樹さんに話をお聞きました。梅本さんは北海道室蘭市出身で、小学生の時、十勝沖地震を経験しました。その大きな揺れで小学校が半壊したそうです。そのような経験をされたことから、

あったらまず逃げるということが一番大事だ」とおっしゃっています。

1. 磯の浦海水浴場で津波避難訓練を実施するに至った経緯と結果は

磯の浦自治会長の杉本さんから、県サーフィン連盟に津波避難訓練を実施するという話を聞きました。東南海・南海地震が発生した際、磯の浦自治会ではお年寄りなどが多いため、どのように避難すればいいのかを自治会で考えていただきました。この訓練では、海はサーフィン連盟が担当し、陸は磯の浦自治会が担当しました。避難訓練実施日は海水浴客など1,000名近くの方がビーチにおり、訓練自体うまくいくのかと心配しておりましたが、サイレンを流し避難のためのアナウンスをするとすべての方が海から陸にあがってくれました。サーフィン歴30年、防災について活動をはじめて22年になりますが、磯子（いそこ）という愛称で親しまれ、西の湘南と例えられている磯の浦で行ったこの避難訓練はもっとも達成感のあった取り組みのひとつです。磯の浦自治会や様々な方の協力のおかげで、中身の濃い避難訓練ができました。

2. 現在取り組まれている活動は

県サーフィン連盟は、現在和歌山県と協力して磯の浦海水浴場付近のハザードマップを作成しています。ハザードマップが作成できれば、県内のサーフショップやサーフショップ会員をはじめ、日本サーフィン連盟や関連団体の支部にも配布を予定しています。

また、一年に一度は避難訓練などの防災活動を行いたいと考えています。他に防災活動の取り組みのひとつとして県サーフィン連盟はインターネットで防災対策という意味も込めて波情報を発信しています。

3. 今後の防災の取り組みは

ハザードマップが定着したら、来年は再び避難訓練を行いたいと考えています。避難場所を有効に活用するためにも避難訓練が必要だと思います。防災には地域の方やいろいろな方が協力していかなくてはなりません。今後も地域や行政やいろいろな方と協力して防災活動に取り組んでいきたいと思っています。

「紀の国防災人づくり塾修了者の活動 1」



(収録風景、白浜ビーチステーション)

今年の5月からコミュニティFM放送局・白浜ビーチステーション（白浜町）で防災番組「待ったなし、防災！」がスタートしました。この番組は和歌山大学防災研究教育プロジェクトが企画・構成・監修を担当し、工夫をこらした新しいスタイルの防災番組です。この番組にパーソナリティとして出演されているのが、市場美佐子さん、三和田真由美さん、幾島浩恵さんの三名の方々です。この方々は「紀の国防災人づくり塾」の修了後、防災士の資格を取得し、各地域で様々な自主防災活動に取り組んでいます。この三名の方々と和歌山大学の今西武客員准教授に話をお聞きしました。

「待ったなし、防災！」

(聴取エリア 田辺市周辺)

●放送日 (FM76.4MHZ)

- 第1月曜日 16:00~16:30
- 第2金曜日 11:00~11:30
- 第3月曜日 16:00~16:30
- 第4金曜日 11:00~11:30

1. 紀の国防災人づくり塾終了後に取り組んでいることを気をつけていることは

修了後は旅行先でのホテルの非常口の確認など、これまで気にしていなかったことを気にするようになりました。また、家族で防災について話す機会も増えました。以前は家族と自分を守るために何ができるかということを中心に考えていましたが、修了後は家族と自分が無事だったら、その後私に何ができるかということについても考えるようになりました。

ガスや電気が使えなくなったらどうやってご飯を炊くかということ、子供達と一緒にアルミ缶を使ってご飯を炊いたりもしました。半分以上はきちんと炊けませんでした。遊びながらできること、子どもでもできるようなことに取り組んでいくことが大事だと思います。

2. 防災活動に取り組む上で苦労していることは

防災活動に取り組む上で最も難しく、苦労する点は防災活動の企画と運営の方法が分からないことです。人づくり塾を修了しただけで具体的に防災活動を行うのは非常に難しく、どう企画し運営したら良いのかわかりません。幸い、私たちの場合、防災活動の企画と運営の方法などについて和歌山大学の今西客員准教授からサポートとアドバイスを受けながら防災活動を続けています。

3. 今後の取り組み

私たちは大災害に対し完全に備えることは到底無理な話です。自分の命は自分で守り、家族の命は家族で守り、地域の人たちの命は地域で守ることが防災の基本です。外国や他府県で大地震や津波が発生した場合、他人事ではなく、大災害を我が身のものとしてとらえ、防災に対する備えを具体的にを行うことが必要です。例えば、家具の固定などを行い、飲料水・食料・簡易トイレを備蓄するなど、小さなことでも一人一人が災害に対する備えを実行すれば大きな防災につながると考えています。

今後、私たちはリアルな防災活動に取り組みたいと考えています。私たちは一日に三度、食事をとります。では、トイレは一日に何回いくのでしょうか。このように私たちの生活の身近なことから防災を考え、日頃から大災害に備えることが非常に大切なことです。

4. 「待ったなし、防災！」で伝えたいこと

番組の目的は阪神・淡路大震災や新潟中越地震で学んだ貴重な経験や教訓をリスナーの方々にもリアルに伝えることです。そして東南海・南海地震が発生した時に、この貴重な経験や教訓を生かしていただくため、この番組では大震災の現実を直視した被災地のできごとを具体的に取り上げています。特に、大震災の際、多くの方々が亡くなった間接死（防ぐことができた死）の主原因であるトイレ問題をメインテーマとして取り上げています。

市場さん、三和田さん、幾島さん、そしてメインパーソナリティーの中川あやさん（白浜ビーチステーション）、今西さんは、この番組を通じてリスナーの方々や地域住民の防災意識が高まるきっかけになればと考えています。防災活動の企画と運営の方法についてお困りであれば和歌山大学防災研究教育プロジェクトに相談していただくことも可能とのことです。

「紀の国防災人づくり塾修了者の活動 2」



(紀の川市、東山さん)

紀の川市危機管理消防課の東山壽彦さんにお話を聞きました。東山さんは平成18年度に「紀の国防災人づくり塾」を修了し、市と地域住民の方とのパイプ役として地域防災にご活躍されています。

1. 市町村合併によるメリットは

合併する以前は総務課で防災業務を担当していましたが、合併後の現在は危機管理消防課で防災の業務を行っています。総務課では防災の業務以外の仕事も多く、防災の仕事に専念できませんでした。しかし、今では防災を専門に取り組むことができるようになりました。

2. 紀の国防災人づくり塾を受講してよかったことは

人づくり塾を受講して良かったことは、防災の専門知識を吸収できたこと、地域防災力の向上に取り組んでいるいろいろな方と知り合いになれたことです。防災に限らず人のネットワーク、つながりというのはとても重要です。地域防災力が向上するように様々な方の知識を生かして取り組んでいきたいと思えます。人づくり塾で学んだ専門知識と市民の方々とのネットワークを活用して紀の川市の役に立てればと考えています。

3. 紀の川市の防災の取り組み

現在は①紀の川市自主防災組織推進委員の配置、②紀の川市防災ジュニアリーダー育成講座の実施、③紀の川市防災リーダー会（仮称）の設立に取り組んでいます。自主防災組織推進委員とは地域住民と市とのパイプ役になってくれる方です。自主的な防災活動が円滑に進むように、市が実施する補助金制度や防災活動の連絡調整などをお願いしたいと考えています。その中で地域の方々に自主防災の重要性や必要性を認識していただき、地域防災力の向上を図りたいと考えています。

防災ジュニアリーダー育成講座とは和歌山大学防災研究教育プロジェクトと連携した防災についての講義や那賀消防組合による災害対応についての実技講習などです。県下の市町村主催では初めての中学生を対象とした防災専門の講座であり、この8月に実施を予定しています。防災リーダー会（仮称）については紀の国防災人づくり塾修了生、防災士の資格を持っておられる方、防災の専門知識をお持ちの警察や消防のOB等の方々を会員とし、紀の川市民の防災意識の高揚を図り、自主防災組織の推進等により防災に強いまちづくりのため、人づくり塾修了生が中心となり設立の準備を進めていただいているところです。

このような活動を通じて最終的には各地区で自主防災組織を設立していただけるように努めていき、自主防災組織の組織率を上げ、市民のみなさまと連携した「安心、安全のまちづくり」に取り組んでいきたいと考えています。

「紀の国防災人づくり塾」の受講生を募集します

自主防災組織の中心的な担い手を育成するための講座を次のとおり開講します。なお、修了者に「防災士」試験の受験資格を付与します。

日 時 9/16・30、10/14・21、11/4・25、12/9 全7回 10:00～15:45（いずれも日曜日）

対 象 県内在住、県内在勤、在学の16才以上で全講座出席可能な地域の防災活動に関心のある方

定 員 100名（申込順）

会 場 ブラザホープ又は和歌山市中央コミュニティセンター（いずれかの会場で実施します）

費 用 無 料（但し、防災士資格取得の際には各自費用負担が必要となります）

申 込 期 間 8月6日～8月24日

問い合わせ先 県庁総合防災課 電話 073-441-2271 県ホームページでも掲載